

1 低学年の取組2
低学年の実践から

つかむ（課題把握）

○児童の知的好奇心や探求心をくすぐる具体物の提示
○既習事項との関連を促す学習環境の工夫

2年生単元「100より大きい数をしらべよう」

位取りの部屋を全体に提示し、実際に数を当てはめてみることで、本時の学習の見通しを全員が持つことができるようにした。



■教室に掲示して「学習の足あと」

■1年生単元「いくつといくつ」。おはじきを取るゲームを設定し、楽しみながら数の違いについて考えていった。



2つの容器の大きさ比べを、児童が実際に行うことで、学習意欲を喚起させた。この活動が、大きさの比べ方について興味を持たせることにもつながった。



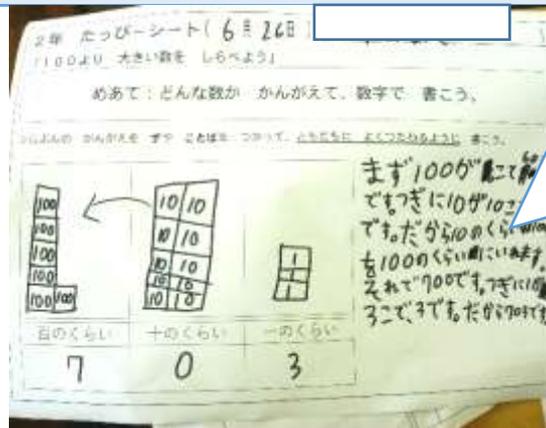
1年生「どちらがおおい」

もとめる（自力解決）

○学習内容や実態に応じた考える場の設定
○たっぴーシートの活用



2年生単元「100より大きい数をしらべよう」



児童がかいた たっぴーシート

■左図のたっぴーシートの記述では「まず」、「つぎに」、「だから」の言葉を使って書かせている。考えを分かりやすく伝えようとする意識を繰り返し指導することで、順序立てて考える習慣が身に付いてきた。



1年生単元「どちらがおおい」

■1年生では、学習内容によって、たっぴーシートへの記述を班で行った。複数で記述することで、考えを出し合い、確かめ合ったり気付きを共有したりする中で声をかけ合いながら学んでいた。一人学びが難しい児童にも達成感を味わわせることにもつながり、児童同士の関わりを深める対話的な学びが自然にできるようになってきた。

ふかめる（共同解決）

- 学び方を示すペア学習の充実
- 全員で考える場を共有するICTの活用



■ 自分の考えを順序よく伝える力を付けるための発表の手引き。相手に分かりやすく伝える話し方を意識させ、ペアや全体での対話的な学びを深めることにつなげている。



ペア学習の説明の様子

ペアから全体へ



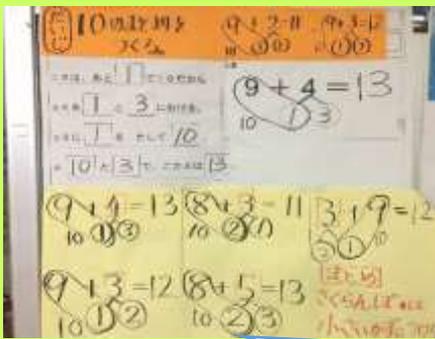
全体場で、たっぴーシートをもとに説明している様子

■ 低学年では、基本的な発表の型を習得することを徹底した。その過程においてペア学習は、相手の考えを知るとともに、自分の考えを確認する場にもなっている。

その後の全体発表では、自分と「違うところ、同じところ」を見つけたり比べたりする見方を重視した。その中で、児童が立ち止まって考えたり、新しい見方を獲得したりしながら、よりよい考えや深い学びに導いていくことができるよう授業を進めていった。

まとめる（まとめ・習熟）

- 学習の学びを意識させるまとめの工夫
- 個に応じた支援



■ 学習のまとめやキーワードは教室に掲示し、次時での振り返りや習熟に生かすことができるようにしている。

■ 適応問題を解く場面では、T1、T2が連携して児童の実態把握に努めている。そして、1時間の授業の中で全員が問題を解くことができるように、個に応じた支援を行っている。



適応問題を解く場面でのT2の支援の様子

成果(○)と課題(●)

- 「つかむ」場面で具体物を提示したり、ゲーム形式で設定したりすることにより、学習に対する児童の関心が高まり、一人学びや共同思考の場面でも効果的だった。
- 「ペアがくしゅう」の手引きは、学習の流れを一人一人に自覚させることができ、順序立てて説明する言葉を習得させることにつながった。
- 全体での学び合いの場では、自分の考えと比べたり、相違点を見つけたりするような教師による問い返しを多く設定した。そこで、児童の気づきが深まり、共同解決の場における学びが深まる場面が見られるようになった。
- たっぴーシートへの記述には個人差があり、個別の支援が欠かせない。時間内に記述できなかつたり、考えを持てなかつたり児童もいるため、個に応じた手立てを工夫していく必要がある。